

[成果情報名]暖地二期作バレイショ栽培の秋作期間での植栽に適したインセクタリアープラント

[要約]暖地二期作バレイショ栽培の秋作期間での植栽に適したインセクタリアープラントは、生育が良好でバレイショ害虫の発生が少なく、土着天敵の発生が多いバーベナ「タピアン」およびソバである。

[キーワード]暖地二期作バレイショ、秋作期間、インセクタリアープラント、土着天敵

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬鈴薯研究室

[連絡先]（代表）0957-36-0043

[区分]いも類

[分類]指導

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

バレイショ栽培では、病虫害の発生および被害防止のため化学農薬の散布が必須となっている。しかし、近年、環境保全型農業への意識向上およびニーズ増加のため、インセクタリアープラントを活用した環境保全型害虫管理技術の開発に取り組んでいる。そこで、暖地二期作バレイショ栽培の秋作期間での植栽に適した植物の中からバーベナ「タピアン」（以下 タピアン）、ソバ「信州ソバ」（以下 ソバ）、マリーゴールド「グランドコントロール」「ディスコオレンジ」「ボナンザイエロー」、スイートアリッサム、ソルゴー「やわらか矮性ソルゴー」（以下 ソルゴー）を植栽し、バレイショ害虫の土着天敵を定着・温存させる効果が高いインセクタリアープラントを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 暖地二期作バレイショ栽培の秋作期間中に供試植物を栽培すると、スイートアリッサムは植付後の高温乾燥により生育が不良となるが、その他の植物はいずれも生育が良好であり、管理も容易である（データ省略）。
2. 発生した土着天敵の種類および発生量が多い植物はタピアン、ソバ、マリーゴールドである（図）。また、マリーゴールドは3品種とも同様の傾向である（データ省略）。
3. 発生が多い土着天敵は、茎葉上に生息する種類ではシヨクガタマバエ、ヒメハナカメムシ類、クモ類の順で、地上徘徊性の種類ではオサムシ類、ハサミムシ類、クモ類の順である（図）。
4. スイートアリッサムには、食葉性のカブラハバチおよびキスジノミハムシ、吸汁性のヒメナガメなど害虫が多発生し、加害を受けて株全体が枯死する（図）。またマリーゴールドには、供試した全ての種でバレイショの害虫であるオオタバコガの成虫が花に多数飛来し、幼虫が発生する（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は、バレイショの秋作期間に合わせてインセクタリアープラントを9月上～中旬に播種および定植して得られた結果であり、他の時期の植栽では植物の生育状況や害虫および天敵の発生種および発生量が異なる場合がある。

[具体的データ]

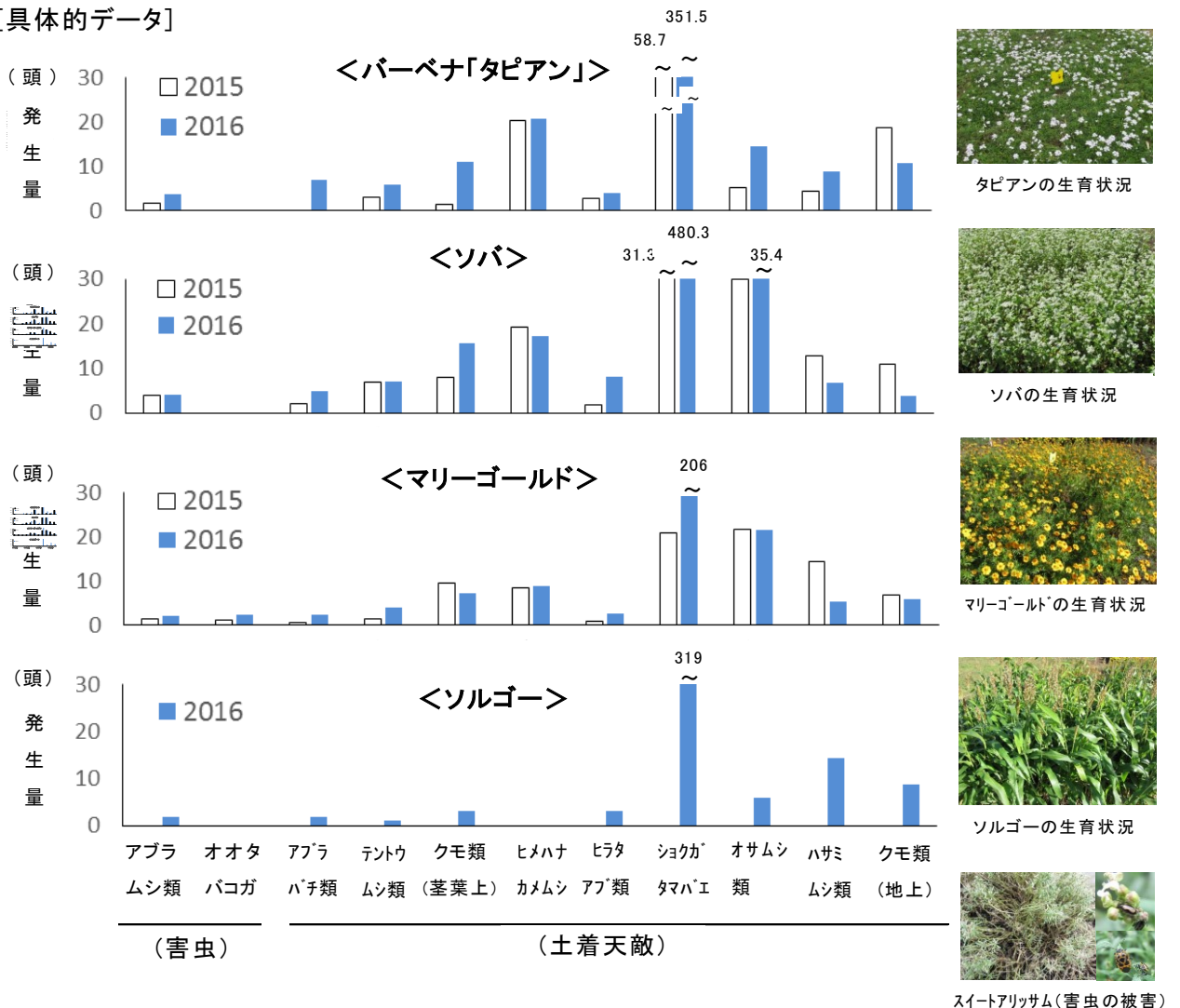


図 インセクタリアープラントで発生する害虫および土着天敵の発生種と発生量

注) 発生量は調査期間中の累積頭数 アブラムシ類、テントウムシ類、クモ類(茎葉上)は各区中央部 100 複葉(ソルゴーのみ 100 葉)の生息数、オオタバコガ、ヒメハナカメムシは各区中央部 50cm×50cm 内の茎葉・花における生息数を 10 日間隔で見取り調査、アブラハチ類、ヒラタアブ類、ショウカタマハエは黄色粘着板(10cm×10cm×2 面)、オサムシ類、ハサミムシ類、クモ類(地上)はピットフォールトラップの捕獲数を 10 日間隔で調査 マリーゴールドは 2 品種の平均値、2016 年は 2 圃場の平均値

1) 耕種概要

<2015 年>タピアン、ソバ、マリーゴールド「グラントコントロール」「デイスコレンジ」、スイートアリッサムの 5 種植物を 1 圃場に植栽(タピアンは 9 月 4 日に定植、その他の植物は 9 月 8 日に播種)
 <2016 年>タピアン、ソバ、マリーゴールド「グラントコントロール」「ホナサンイエロー」の 4 種植物を 2 圃場、ソルゴーを 1 圃場に植栽(タピアンは 9 月 2 日に定植、その他の植物は 9 月 13 日に播種)
 ※両年の全区とも 4 m²(2m×2m)3 反復とし、無農薬で管理

2) 調査期間

<2015 年>見取り調査・ピットフォールトラップ調査: 10 月上旬~12 月上旬、黄色粘着トラップ調査: 10 月中旬~12 月上旬
 <2016 年>見取り調査・黄色粘着トラップ調査・ピットフォールトラップ調査: 9 月下旬~12 月上旬

[その他]

研究課題名: インセクタリアープラントを活用した環境保全型害虫管理技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2015~2018 年度

研究担当者: 福吉賢三

発表論文等: 福吉 (2017) 九州病害虫研究会第 93 回研究発表会 (口頭発表)